様式４　　〈推進校 → 一宮市社協〉

2024年度　一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学　校　名	一宮市立北方小学校	学校Ｎｏ.	16

１．福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

○福祉教育の目標

体験的活動やふれあい活動を通して、互いを理解・尊重し合い、思いやりの心を育て、助け合いながら生活していく態度を育てる。

○計画

５月　いのちの授業（５年生）
６月　相談週間（全学年）
　　福祉実践教室の実施（５年生）
９月　相談週間（全学年）
10月　セルフディフェンス講座（４年生）
　　小中連携あいさつ運動（全学年、中学校と連携して行う）
11月　相談週間（全学年）
12月　人権集会　人権標語づくり　人権教室　人権ビデオの視聴（全学年）
１月　いのちの授業（２年生）
２月　ありがとう週間　相談週間（全学年）

○推進体制

人権・福祉教育部、児童会を中心に計画を立て、全校体制で取り組む。５年生は総合的な学習の時間のテーマとして「福祉」を設定し、年間を通して取り組む。

２．福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1) 福祉実践教室

総合的な学習の時間で、５年生が「福祉」をテーマに、車いす・点字・ガイドヘルプ・手話を講師の方の指導のもと、体験をした。体験したことや調べ学習をもとに、ＩＣＴ機器を活用して、学習発表を行った。

(2) いのちの授業

５年生は生命の誕生するまでの軌跡や実際の出産映像、妊婦体験などを通して、自分の命の大切さや、両親に感謝する気持ちをもたせることができた。２年生も生活科の「あしたへジャンプ」の学習と関わりをもたせ、自分が生まれてきたときの様子を調べさせた。その中で、命の大切や家族の愛情を感じさせることができた。

(3) 人権教室・ありがとう運動・あいさつ運動の取り組み

人権教室では、人権擁護委員の先生方から人権に関わる講話や詩の朗読を聞かせたり、人権に関わる動画を視聴させたりするなど、人権に対する意識を高める活動を行った。また、ありがとう運動では、普段お世話になっている見守り隊の方に、全校で感謝の手紙を書いた。６年生の児童は先生方や１～５年生の児童に向けて、１～５年生の児童は６年生に向けて手紙を書き、感謝の気持ちを伝えた。

あいさつ運動では、中学校の生徒会、小学校の児童会を中心に、登下校での地域の方へのあいさつ、登校時の児童同士や教員とのあいさつを自発的に行えるよう企画した。ボランティアとして全校児童の参加も呼びかけた。

３．福祉教育の成果と今後の課題

５年生は６月の福祉実践教室をもとに、調べ学習を行い、１月に保護者や４年生に発表を行った。それらの活動を通して、福祉実践に対する意識を高めることができた。２年生や５年生では、生活科や理科の授業と関連させて、「いのちの授業」を行ったことで、自他の命の大切さを実感し、家族に対する感謝の念を新たにすることができた。人権週間に合わせて、人権教室を開催したことによって、発達段階に応じて、人権の意味や大切さについて考えるよい機会となった。

今後も児童の実態や発達段階を考慮しながら、福祉教育を進めていきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

様式４　　＜推進校→一宮市社協＞

令和６年度　一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学　校　名	一宮市立大和東小学校	学校 No.	17

１．福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

（１）目標　・高齢者や障害のある方との体験的な交流を通して、相手を尊重する態度を培うとともに、自分たちにできることについて考えさせる。
・社会福祉についての関心を高め、福祉についての実践力を高める。

（２）計画　・「福祉活動の調べ学習」５年生の総合的な学習の時間
・「昔遊び発表会」１年生の生活科

２．福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

（１）福祉実践教室の開催とまとめ学習

①　車いす体験
体験を通して、足の不自由な方が何に困っているのかを知ったり、車いすの扱い方や介助の仕方を学んだりすることができた。

②　手話・点字講習会
実際に点字を打ったり、手話での表現の仕方を体験したりする活動を通して、点字の仕組みや簡単な手話を学ぶことができた。また、視覚障害や聴覚障害のある方のお話しから、情報を得たり、気持ちを表現したりする手段を持つことが気持ちの安らぎになることを知った。

③　視覚障害者ガイドヘルプ体験
アイマスクを装着して廊下や階段を歩くことで、視覚障害のある方の不自由さやガイドヘルプの仕方を知ることができた。

④　活動を通したまとめ学習
実践教室以前に調べたことに加え体験で学んだことや気づいたことをまとめて、学級で発表した。

（２）昔遊びの調べ学習とお礼のお手紙
大和連区の老人会の方に昔遊び(けん玉・お手玉・こま・おはじき・竹ぽっくり)の遊び方や上手にできるコツを教えていただいた。そこで学んだこと、感じたことを学級ごとで用紙にまとめた。また、その発表の際には実技を交えて互いに伝え合う姿が見られた。
昔遊びの会で楽しく過ごせたことや上手にできるようになったこと、教えていただいた老人会の方への感謝の思いを表現した手紙を書き代表の方に届けた。

３．福祉教育の成果と今後の課題

これらの福祉活動を体験したことで、児童は、障害のある方の生活の不自由さの一端を知ったり、様々な立場の方と触れ合って学んだりすることができた。特に、福祉実践教室では、本やインターネットでの学びだけでなく、体験的な学びを通して意欲的に深く福祉について学ぶことができた。それにより、誰もが支えあって生きることの大切さを学ぶだけでなく、実践していこうという意欲の高まりを感じた。また、昔遊びの会では、お年寄りに対して明るい笑顔で触れ合う姿が多くみられ、地域の方とのつながりといった面でもよい機会であり、地域でよりよく生きていこうする気持ちの高まりを感じた。

学習後の感想や手紙には、障害への理解が深まったばかりでなく、障害のある方を支援する際に、この学習を生かして相手の気持ちを考え、自分にできることをしていきたいという内容が多くあった。また、昔遊びの会についても、自分ができるようになって楽しかったことや、感謝の気持ちだけでなく、相手の健康に気づかう文面までも見られた。これらの学習で、児童の福祉に対する関心は高まった。今後は、その実践意欲を実践力へと高めていくために、継続的に学習を進めていく必要があると考えている。

様式４　　〈推進校→一宮市社協〉

令和６年度　一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学　校　名	一宮市立大和西小学校	学校 No.	１８

１．福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

（目標）

○体験活動から様々な障害のある人々の立場になって考えさせる。自分たちのまちを「福祉のまち」としてより住みよいまちにするために、自分たちにできることは何かを考えさせる。

○福祉実践教室を体験したり、聾学校児童との交流活動を計画して実践したりすることで、自分を生かしながら、他者と共によりよく生きていこうとする態度を育てる。

（計画と推進体制）

１学期…福祉実践教室を行う。（５年）
２学期…一宮聾学校の児童を本校に招き、交流活動を行う。（全校）
３学期…一宮聾学校へ出かけ、交流活動を行う。（３・５年）
年　間…インターネット等を使い、福祉に関する調べ学習を行う。（５年）

福祉実践教室の様子

２．福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

（１）福祉実践教室

「車いす」「視覚障害者ガイドヘルプ」「手話」「高齢者疑似体験」に分かれて行った。「車いす」体験では、車いすの操作について学んだ。「ガイドヘルプ」体験では、声のかけ方や、誘導の仕方を学び、「手話」体験では、自分の名前の表現の仕方などを知ることができた。どの講座でも普段できない貴重な体験をし、社会の中で自分たちには何ができるかを考えることができた。

（２）一宮聾学校との交流

２学期に、本校に聾学校の児童を迎え、交流活動を行った。今年度は、聾学校の児童が、学年ごとに分かれて、本校の通常の授業に参加するという形で実施した。授業では、話し合い活動などで、聾学校の児童と交流する様子が見られた。

３学期には、３年生と５年生の２学級が、一宮聾学校へ行き、聾学校の児童と交流活動を行った。グラウンドゴルフを一緒に活動する中で、笑顔で楽しそうに行う児童の姿を見ることができた。

聾学校交流の様子

（３）総合的な学習の時間

５年生は「共生」をテーマに、年間を通して学習を進めた。６月の福祉実践教室を出発点に、福祉に関する学習を進めた。２学期からは、「シンガッコウプロジェクト」と題して、ユニバーサルデザインの視点から誰もが生活・学習しやすい大和西小学校の在り方を、図書資料やインターネット等を利用するなどして、調べ学習を進めた。１月の学習発表会では、班ごとに考えた「シンガッコウプロジェクト」を発表した。

３．福祉教育の成果と今後の課題

（成果）

・調べたり、交流したり、発表したりという活動形式によって、福祉に関する理解を深めることができた。
・立場の違う人たちと共に生きるために、今の自分たちにできることは何かを考えることができた。
・活動の様子を校内に掲示することで、全校児童に取り組みの内容を伝えることができた。

（課題）

・福祉実践教室や聾学校との交流を、今後どのように進めていくとよいか、カリキュラムマネジメントの視点から検討してく。

様式４　　〈推進校 → 一宮市社協〉

2024年度　一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学　校　名	一宮市立今伊勢小学校	学校Ｎｏ.	19

１．福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校は「心身とも健康で、確かな力と豊かな心を持った今伊勢っ子を育成する。」を教育目標に、日々の教育活動に取り組んでいる。今年度も本校の学校経営方針の一つに「道徳教育を一層充実させ、思いやりのある心豊かな児童を育てる。」を掲げており、継続して福祉の心を育て、実践する力を持った児童の育成を目指して実践を進めた。

５月：緑の募金（緑化委員を中心に）
７月：ポスターの募集
１０月：ごみゼロ運動（校内清掃）
１１月：いのちの授業（５年生）
１１月：福祉実践教室（５年生）
１２月：赤い羽根募金（児童会役員・代表委員を中心に）
毎月：あいさつ運動（原則第３月曜日）

２．福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

（１）福祉実践教室（５年生）
愛知県社会福祉協議会ボランティアセンター発刊の「思い出してごらん」テキストを使って、事前学習を行った上で福祉実践教室を実施した。車いす・手話・点字・ガイドヘルプ・高齢者疑似体験・認知症理解の６つの講座に分かれて、講義・実習を行った。協議会の方々のご配慮により、講師の先生方の体験談なども交えながら開催することができ、大変有意義な時間を過ごすことができた。

（２）感謝の気持ちを伝える取り組み
本校は、読み聞かせボランティア・保護者による旗当番・地域の方々によるみまもり隊など、多くの方々に支えられながら教育活動を行っている。年度末には、全校でお礼の手紙を書き、感謝の気持ちを伝えた。

３．福祉教育の成果と今後の課題

今後は、福祉に関する学習や体験を、計画的かつ継続的に進めることで、子どもたちの意識の中の、「相手の状況を思いやり、自分として何ができるか」という福祉の気持ちを育てていきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

様式４　　〈推進校 → 一宮市社協〉

2024年度　一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学　校　名	一宮市立奥小学校	学校Ｎｏ.	20

１．福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

・福祉実践教室（第５学年）

２．福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

・高齢者疑似体験

・発達障害理解

・点字

・視覚障害者ガイドヘルプ

・要約筆記

３．福祉教育の成果と今後の課題

【成果】

・児童たちは事前学習で福祉について学び、共生社会についての理解を深めました。

・また、実際に体験することで、自分事として考えることができました。

・振り返りの場面でも、率先して考えたこと、感じたことなどを発表し、共有していました。

【課題】

・今回学べたことを生かすため、定期的に授業や普段の生活の中で、福祉について、共生社会の在り方について考えさせる場面を作っていく。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。